# 市民句会報

令和六年一月二十四日

オーテピア高知図書館（高知市民図書館）　〇印　味元昭次選　順不同

富子

〇湯たんぽに今日と明日を語りかけ
〇初景色路に入れ歯の落とし物
自家製で賄えた日もあり七草や

千代

〇街空を鳶（とんび）のつがい初景色
ひび入りし鳥居へ朝日初山河
人日の速報地の揺れ波の揺れ

文子

〇白鷺の中洲降り立つ初景色
〇人日の「用心棒」の山田五十鈴
〇雨後の川枯葦光り集めおり

農子

故郷の廃校残る初山河
人日の一人籠りて暮れにけり
賀状来ぬスマホも持たぬ友想う

初江

〇人の日の列ある街の弁当屋
兄追って通園したい児春よ来い
初景色いつも通りのもみじ橋

人日や宅急便に姪の声
吾子誘ひ米寿の夫と初喫茶
氏神へ石段の列初景色

富江

〇人日や七つの椀の朝の粥
紛れ込む日曜市の初景色
大寒のバイカオウレン粛々と

丞子

〇七種を刻（きざ）む手許に夕日光（こう）
元旦の汽笛は長く明けの空
活気づく早春の市土佐訛（いち）

郁子

メールにはおせち料理や七福神
七草がゆ仏と食す朱のお椀
猫よけて炬燵にそっと足伸ばす

酔花

えり

〇人日やスマホ決済レジ通る
天界の何も変わらず鏡餅
大歩危や舳先に迫り初景色

志津子

〇日だまりにここに居ますと冬すみれ
冬天や鳶はゆっくり輪を描く
冬の灯の一つ消えたる道の先

同胞は皆よろよろと初山河
人日や片手を挙げる笠智衆
人日や昭和の日々を夢にみて

味元　昭次　作品

★次回市民句会
【開催日時】
令和六年二月二十八日（水）
午後一時十五分～午後四時（予定）
【場所】
オーテピア４階　研修室
どなたでも自由にご参加いただけます